

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290201476		
法人名	株式会社 オールブルー		
事業所名	グループホーム咲花多		
所在地	長崎県佐世保市赤崎町1018番地2		
自己評価作成日	令和 3年 8月 1日	評価結果市町村受理日	令和 3年 10月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和 3年 9月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐世保の港が一望できる静かな高台に建っており、美しい風景や船の行き来を楽しむことができます。施設内テラスでは、入居者様も日光浴を楽しんだり、夏には、佐世保市で開催される花火大会を楽しむことができ、入居者様とご家族様にも好評です。
家庭的な雰囲気を大切に、第二の我が家となることができるように援助を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

赤崎愛宕山の麓に位置しホームのウッドデッキから佐世保港や遥か先の川棚の虚空蔵山を見渡せ、その眺望が入居者や家族から好評であり、入居者が深呼吸して気分転換が図れる空間となっている。3年前に運営母体の変更があったが、職員一人ひとりが入居者の穏やかな生活の実現に向け、「笑顔追及、」の法人理念に基づき、日々の実践に取り組んでおり、職員は入居者の話を聞き、その思いを受け入れ家族のような関りを大切にし、入居者が気兼ねなく暮らせる環境づくりができています。ホームの畑に栽培した野菜を入居者が採ってきたり、つわむぎ、下膳等、残存能力に応じて入居者が食事に関わる場面づくりを行っている。食事の味付けや彩りは入居者に好評であり、食生活への楽しみが入居者の日々の意欲へと繋がっている。コロナ禍収束後には地域に根差した交流を再開することを念頭に置いており、今後も入居者が地域住民として日々の生活を送れることが大いに期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をいつも目に付くところに掲示し、サービスの質の向上を目指して、日々の介護をその理念に照らし合わせつつ管理者、職員が常に情報を共有し日々の実践を行っている。	業務に就く前に理念について職員各自が読み上げ、管理者が理念の周知状況を確認している。また、ミーティング時には理念を再確認するなど、全職員が理念に基づいて日々の支援を実施し、サービスの質の向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は入居者様が花壇の手入れ等外にでており、近所の方から声をかけていただいたりと顔見知りの関係を築くことができている。	コロナ禍により地域との交流は以前のようにはできていない状況である。ホームは町内会に加入しており、毎月発行する佐世保市広報誌を地域の班長がホームに持参し、その際に地域の情報等を得ている。ホームの庭先で近隣住民とあいさつや会話をし、入居者とも直接会話をすることで可能な限り交流を継続できるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に、施設内での行事や取組についての文書を作成し、認知症の方の暮らし等を知ってもらえる機会をつくっている。また、認知症に対する相談も随時受けていることを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も新型コロナウイルス禍のため書面開催となっている。利用者の状況や活動報告を書面化しお伝えしている。地域の状況等を踏まえたうえでご意見いただきサービス向上に活かせるように努めている。	コロナ禍により運営推進会議は書面会議を継続している。運営推進会議では入居者状況・活動状況・職員の配置状況・事故報告・身体拘束適正化検討委員会等に関し報告し、メンバーから質問や意見をもらい、必要に応じてホームの運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者にかかわる事や介護に関する事への不明点等は、行政担当部署職員と連絡を取るなど対応している。	運営推進会議のメンバーである地域包括支援センター職員との情報交換のほか新型コロナウイルス感染症対策に関して、市長寿社会課担当者とメールでのやり取りや、市生活福祉課への申請手続き等で窓口に出向くなど連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の際、咲花多においての身体拘束適正化のための指針を皆で読むようにしている。また、困難事例の際には、その都度ミーティングを開催し職員の意識を高める取り組みに努めている。	身体拘束適正化対策検討委員会の開催と内容を議事録に残している。身体拘束についてのマニュアルは職員がいつでも確認ができるような場所に保管している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングの際に高齢者虐待防止関連について話合うようにしている。身体拘束適正化委員会時に同時に話し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はおられないが、その制度について学ぶ機会をつくっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、丁寧な説明をおこない疑問や不安な部分についてもお答えできるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に施設内や外部の相談機関の窓口について説明するようにしている。また、面会時に利用者の様子を伝えながら意見や要望を聞くようにしている。最近では面会が自由にできないこともあり、電話での報告や意見を聞くことが多くなっている、	ホームの相談窓口や外部の苦情申し立て窓口を重要事項説明書に記載し、契約時に説明している。現在、コロナ禍により家族の面会を制限しているため、電話で家族からの意見や要望を聞き取り運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は普段から職員の意見を聴くようにしている。職員の希望を基にシフトや休みの調整をしている。	職員は日頃のミーティング等を通じていつでも運営に関する提案や要望等を言うことができ、すぐに反映できるよう取り組んでいる。管理社は職員の希望休を聞き取ってシフト作成を行ったり、既定の有給休暇を消化するなど職場環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に対しての手当や、資格取得に向けての助成金の制度の情報提供も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を目指している職員にはシフトの調整を行っている。現在コロナの影響で開催中止になっているが、開催されているときには、研修会に交代で出席するようにしていた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属しており、その中の活動で意見交換を行う場に参加している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時より、入所にあたっての不安な気持ちに寄り添いながら信頼関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃より信頼関係を築けるように心がけている。入居時や面会時には、ご家族から要望や不安な事等を聞き出せるように心がけている。また、要望などがあれば介護計画に反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご家族に現在の状況をうかがいご本人の様子を拝見し現在一番困っておられる事やニーズを考慮し介護計画に反映できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や、洗濯ものを干したり畳んだり利用者様と一緒に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて日頃の様子をお伝えしている。ご家族と入居者様が主体となって問題を考えていただき、あくまでお手伝いをさせていただいている事を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人と電話をたのしんだり、手紙交換のお手伝いをしたり関係が途切れないような支援に努めている。	現在、コロナ禍により馴染みの場所へ出向く等の支援はできない状況である。尚、入居者の希望に応じて子どもや孫に電話して声を聞いて安心してもらえるよう支援したり、電話でのやり取りを自由にできるよう対応を行うなどできる範囲で馴染みの人との関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話しやすい空間づくりを心掛けている。認知症からの行動について他の入居様からの注目を集めることがないように仲介に入り支援をおこなっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退所された後もいつでも何かあられたときには相談してくださいとお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で利用者様との会話を大切にしている。会話やその時の表情等から本人の思いをくみ取ることができるようにこころがけている。また、そのことについて申し送りや記録を通して情報の共有をはかることができるように努めている。	職員は入居者との日々の会話の中で、その方の思いの把握や、表情を観察して希望や意向を汲み取るよう努めている。入居者が発した言葉から初めて知り得た生活歴等はミーティング時に報告したり申し送りノート及び業務日誌に記録し、全職員が情報共有できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族やこれまで利用されていた介護事業者に連絡をとるなどしてこれまでかかわってこられた多くの方からの情報収集を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	適宜アセスメントチェックを行い、現状の把握、また変化について知る事ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の変化について話し合いを行い、介護計画を立案している。またご家族からこれまでの生活歴などを調査してご本人の思いに寄り添ったケアマネジメントができるように努めている。	ケアプラン見直しに関するサービス担当者会議に全職員が参加し、ケアプラン立案に向け検討している。話合った内容をもとにプラン作成者が原案を作成し、職員へフィードバックした後、プラン作成に繋げている。サービス内容を日々の個人記録に記載し、達成度を確認し、次回見直し時の検討材料として活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフが利用者様と接した中での気づきを基に介護計画の見直しや、実践にあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とご家族の状況に応じて援助をおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ということもあり、現在は外出等原則として制限をかけている状況である。施設敷地内の畑等を利用し野菜を育て、食事の中で提供する等いきがい支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医についてご家族と相談をしている。現在は、施設協力医に往診に来ていただいで対応をしている。	入居時に入居者や家族にかかりつけ医に関する希望を聞き取り、現在は全入居者がホームの協力医をかかりつけ医としている。入居者は月2回、訪問診療を受けている。週1回、訪問看護の看護師が健康管理やかかりつけ医への相談の必要性についての指示を得るなど、入居者が適切な医療を受けられる態勢を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる症状等については、小さな事でも主治医にFaxにて知らせるようにしている。その都度、電話や往診にて対応ができるようになってきている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院されている間も定期的に入居者の情報提供依頼をおこなっている。病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取りについての指針について入居時に説明している。看取り等の段階になった時には主治医とご家族施設職員で話し合いの場を設けて同意確認等を行っている。	重要事項説明書に看取り支援に関して詳細に記載し、入居時に本人や家族の意向を聞き取っている。職員は看護職員と連携しマニュアル及び指針に基づき看取りへの共通認識を持つよう研修に参加し研鑽している。主治医や家族とのカンファレンスを実施し、ホームでの看取り支援を説明した上で家族の希望に沿えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、マニュアルを作成して対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害・火災避難訓練を年2回実施し、消防署に立ち会っていただいている。また地域の方にも訓練をすることを伝えている。	前年度はコロナ禍により自主訓練のみ実施し、夜間想定を想定した火災避難訓練や地震避難訓練を行った。本年5月には消防署の立会い下で避難訓練を実施し消防署の講評も記録に残している。職員は消火器を使用した初期消火ができる技能を身に付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者を人生の先輩として接し、言葉遣いに注意を払うようにしている。不穏時や失禁等の時には、周囲の方の注目を集めないようにして対応している。	職員は日頃から入居者を尊重する姿勢で支援に努めている。万一、不適切な対応や態度が見受けられた際にはミーティングを開き、即座に是正するよう管理者が指導し、職員誰もが的確に対応できるよう取り組んでいる。	コロナ禍であり接遇等に関する外部研修の受講はできていない。例えば年間研修計画に接遇等のリモート研修やDVD等を活用した内部研修を組み入れる等、外部研修を代替した研修計画を立案し取組むことを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中のスケジュールとして大まかな決まりはあるものの、ご本人が自分で決めることができるような声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご家族やご本人の思いを優先しながら、外出等の計画をたてるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容のカット等の際には、ご本人が自分で美容師様に「こんな髪型にして」等と要望を出されることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や旬の食材を考慮し、食事を提供している。利用者のリクエストのメニューや行事食など利用者の食欲を高め楽しい食事支援に努めている。	食事準備の際にホームの畑から野菜を採ったり、つわむき、下膳等、入居者が食事についての何らかの関わりや役割が持てるようその方に応じた支援を行っている。敬老の日、正月などの行事食のほか、90歳、100歳のお祝いにはデザートを振舞い祝福する等、各イベントに応じて食への楽しみが持てるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や食事形態も利用者の状態に応じて個々に対応している。また、水分確保の支援についても主治医よりジュースでもよいとの指示のもと、野菜ジュースにしたり、スポーツドリンクを利用したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に専門職の方からアドバイスをいただき個々に対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄支援状況を排泄チェック表に記録し、職員間で情報を共有している。トイレ誘導やパットの種類等、個別の習慣に配慮した支援内容を検討している。	職員は入居者各自の排泄パターンの把握に努め、トイレへの声かけや誘導等、個別支援を行っている。また、他の職員が把握できるよう排泄チェック表に記録している。入居者の状態によって夜間にはパッドのサイズを調整する等、入居者への身体的負担や家族への経済的負担にも配慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善を目的として、夕食には、ヨーグルトやヤクルトなどを提供するようになっている。また適切に主治医からの便秘薬等の服薬ができるように援助をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回を目安に入浴支援をしている。入浴拒否のある利用者に対しては声掛け工夫をしたり、気分にあった時間に入浴を勧めたり対応している。	入居者が週2回入浴できるよう支援を行っている。入浴への拒否や体調不良等で入浴ができなかった場合は他の日に入浴できるよう代替日を調整している。春には菖蒲湯に入るなど季節感を味わえるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後はお昼寝等自由に休息ができるように支援をしている。冬場は本人の希望により、電気あんかを使用したり安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成して処方があった時には、記載するようにしている。薬の変更があった時には、業務日誌と服薬ファイルに記載し全職員がすぐに確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換を図る事ができるように援助をしている。畑に出て、草むしりをおこなったり、花や野菜を収穫したり明るく過ごしておられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ禍のため、大勢の人がいる場所や外出は自粛している。天候や体調に合わせてホーム周辺を散歩したり、ご家族協力のもと、ご自宅に遊びにいかれたりされている。	現在、コロナ禍で希望に応じた外出支援ができない状況だが、今年はホーム内でたこ焼き、焼きそば、ヨーヨー釣り等の出店を設置した夏祭りを行うなど、入居者と職員が共に楽しめるよう工夫しながら支援している。管理者はコロナ禍が収束したら以前のような外出支援を再開する意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族やご本人からの希望がある方は、自分でお金の管理をされている。その他の方は、施設金庫にて管理を買い物や受診の際にお渡しするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を掛けたり、手紙やはがきを送ったりされる時には書き物をお手伝する等支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、居心地が良い空間づくりに努めている。	フロアやトイレ、廊下の清掃はシフトによる担当職員が行い、清潔保持に努めている。感染症対策のため、手すり、テーブル等はアルコール消毒し、入居者や職員の感染防止を図っている。季節の花を飾ったり、壁の装飾にも配慮し、入居者が居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファを設置しており、そこで横になられたり、仲良しの利用者同士でおしゃべりを楽しめる事ができるように支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がホームでの生活に馴染めるように使いなれた、家具などを持ち込まれている。日中が、定期的に換気を行ったり、居室清掃を行う等利用者が居心地よく過ごすことができるように配慮している。	居室には入居者が以前の生活を継続できるよう仏壇や位牌、寝具等が持ち込まれている。入居者がフロアで寛いでいる時間に換気や掃除機かけ、モップ拭きの清掃を行い、入居者が居室で居心地よく生活ができるよう清潔保持に努めている。家具等の配置は入居者本人が決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の居室の場所が一目でわかるようにプレートを作成する等戸惑い少なく生活を送る事ができるように支援をしている。		